

## 第 41 回経済学会賞(本行賞)審査講評

第 41 回経済学会賞には 8 本の論文の応募があり、いずれも応募者の学習と研究の成果を示す良作であった。審査委員会は、厳正なる審査の結果、優れた論文として、以下の優秀作 2 本及び佳作 2 本を選出した。

優秀作 2 編

小川 創(経済学部4年)

「ベイズ統計学の枠組みによるパターン混合モデルを用いた欠測データ解析について」

下山 翔(経済学部4年)

「投資ステージがあるオークションの分析」

佳作 2 編

安孫子 幸枝(経済学部4年)

「働き方改革関連法による長時間労働の是正が健康に与える影響」

吹原 有哉(経済学部4年)

「家計内の資源配分の推定」

以下、受賞論文にたいしての講評を記す。

優秀作に選ばれた小川氏の論文は、データに欠測が生じる場合における統計解析手法についての研究である。本研究では、欠測値を含むデータを処理するための統計モデルの一種であるパターン混合モデルについて、ベイズ統計学の枠組みを用いて拡張を行うことを提案している。パターン混合モデルにおいては、データの欠測が原因で推定できないパラメータについて、分析者が何らかの制約を設けることが必要となる。そこで、本研究ではその制約をベイズ統計学の枠組みにおける事前分布として解釈し、事前分布の形で表現された制約と尤度関数を用いて、パラメータと欠測値を交互に生成することでパラメータの近似的な事後分布を得る手法を提案している。この提案手法について、アウトカムに欠測が生じたパネルデータを用いて重回帰分析およびランダム化比較実験(RCT)による因果推論を行う状況を想定した数値実験を行い、従来の手法よりも優れた結果が得られることを明らかにしている。統計解析においてしばしば発生する欠測データの問題に対処する新たな手法が示されたといえ、きわめて有益な研究結果として複数の審査委員から高い評価が得られた。

優秀作に選ばれた下山氏の論文は、入札参加者に投資機会があるオークションに関する理論研究である。公共調達や特許・免許を念頭に、本論文は入札参加者が財の価値に関する情報を得た後、入札実施前に財の価値を高めるような投資を実行できる状況を考える。他者の投資決定を入札前に観察できないときの一位価格・二位価格オークションの均衡を導出し、投資決定および売り手の期待収入について同値定理が成り立つことを示し

た。本論文は事前の投資のある2段階オークションのモデルで、均衡経路外の行動を含め精確に均衡を導出し、理論的に美しい結果を示した点が評価できる。本論文のモデルは既存研究でも十分に分析されておらず、学術的な新規性も認められる。論文内で下山氏自身が課題として指摘している内容について適切な追加分析を行い、洗練された英語でまとめれば、国際学術雑誌に掲載可能なレベルの内容であるとの高い評価が得られた。佳作に選ばれた安孫子氏の論文は、長時間労働が労働者の健康に与える影響について、2019年及び2020年の2年分8,614人のプールドクロスセクションデータに基づき、実証的に検討を行っている。検討の結果、長時間労働の是正は健康を害する確率を2.1%低下させると推計されたものの、当該数値は統計的に有意でないことを明らかにしている。働き方改革関連法による長時間労働の是正が必ずしも労働者の健康向上につながらない可能性が示唆されたといえ、データ量が十分ではないなどの問題点は残されるが、重要な政策提言につながる研究として一層の発展が期待されよう。

佳作に選ばれた吹原氏の論文は、家計内の資源配分について構造推定に機械学習の手法を組み合わせて実証的に検討し、第一子の誕生と引き換えに、女性の資源配分の30%が減少し、30%のうち男性に8%、子供に22%の割り当てが起こっていることを明らかにしている。先行研究で課題となっていた独身時代からの選好の変化という問題をクリアするため、衣類への支出割合を加えて推計している所に本論文の特徴がある。研究結果から導かれる結論自体にそれほど目新しさがあるわけではないが、少子化対策として女性への支援が重要という政策的含意が説得的に付加された点については一定の評価ができよう。最後に、今回の応募作はいずれも水準が高かったが、アブストラクトも含め、一読しただけでは研究の狙いや研究結果の学術的意義が分かりにくいものが多かったような印象を受けた。本経済学会賞では理論・実証・歴史・国際比較という幅広い分野の研究を4名の審査員で審査しており、いわゆる査読付き専門学術誌とはやや性格を異にしている。課題の設定と研究結果及び先行研究からどのように研究を発展させたのか、について一目瞭然の図表が付せられていれば、審査委員会により効果的にアピールできただろう。この点は、研究者としての就職活動や研究費の獲得において重要となってくる所でもあり、今後の改善に期待したい。

2024年3月25日

第41回経済学会賞(本行賞)審査委員会

審査委員長: 邊英治

審査委員: 鶴岡昌徳, 相馬尚人, 杉本康太

## 第 41 回経済学会賞(本行賞)受賞者メッセージ

### 小川 創

この度は本行賞の優秀作に選んでいただき、とても光栄に思います。

今回の論文のトピックの一つである、ベイズ統計学は私が大学に入学して初めて関心を持ち自主的な学習を行った分野でした。しかし大学生活を通して、この分野を共に学ぶ仲間に出会うことができず、自分はどこへ向かって進んでいるのかよく悩みました。今回表彰していただけたことは大変嬉しく、これからは今までよりも自信を持って励むことができそうだと感じております。

最後に、私を支えてくれた家族と友人に感謝します。

### 下山 翔

この度は経済学会賞(本行賞)を受賞することができ、大変光栄に思います。本論文作成にあたり、佐野先生には手厚くご指導していただきました。研究当初から最後まで常に適切なご助言を賜りました。この場を借りて心より感謝を申し上げます。また、友人たちにも感謝します。自身の目標にひたむきに向かっていく姿にいつも励まされてきました。最後に、家族がいつも私のことを信じ、遠くから温かく見守ってくれたからこそ安心して研究に取り組むことができました。

多くの方々に支えていただいたことへの感謝の気持ちを忘れず、今後もより一層精進してまいります。

### 安孫子 幸枝

この度は本行賞佳作に選出いただき、大変光栄に思います。

「働き方改革」は、当時会社員だった自身にとって、従来の働き方に変革を促す大きな出来事でした。学生になってからも、あの出来事が社会に与えた影響について関心が薄れることはなく研究テーマに選びました。

そのため研究を通じて答えが出せたこと、このような形で評価していただけたこと、大変嬉しく思います。

この論文を完成することができたのは、卒業まで手厚く指導くださった大森先生のおかげです。心より感謝申し上げます。

また労働法の石崎先生、2年間ともに学んだ大森ゼミのみんな、本研究に協力いただいたすべての方々に感謝いたします。

## 吹原 有哉

本行賞の佳作に選出いただき誠にありがとうございます。本論文では日本の衣類消費のデータを用いて、家計内の交渉力(資源の分配)の構造推定を行いました。

論文の執筆や学習等に関して常に的確で丁寧なアドバイスをくださった大森先生、RA など実践的な活動を通して指導していただいた鶴岡先生、古川先生に心より感謝を申し上げます。

論文の作成を通して学んだことを糧として、今後も学習を続けていきたいと思っております。